



# 始動

2030年の国スポ、全障スポへ

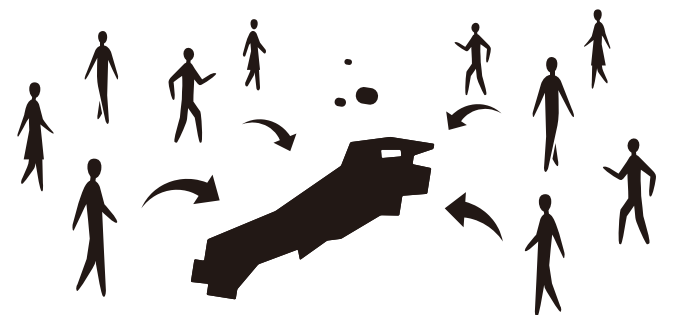
**今から9年後の令和12年(2030年)、「国民スポーツ大会(現、国民体育大会)」、「全国障害者スポーツ大会」が島根県で開催されます。昨年10月、準備委員会を設立し、大会の成功に向け本格的な取組がスタートしました。**

国民スポーツ大会(国スポ)は昭和21年(1946年)から、全国障害者スポーツ大会(全障スポ)は、昭和40年(1965年)から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と平成4年(1992年)から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として平成13年(2001年)から、天皇后両陛下をはじめ皇室の方々をお迎えし、都道府県持ち回りで毎年開催されています。国スポの正式競技は本大会と冬季大会を合わせて40競技が実施され、競技ごとに獲得した得点の合計を競う都道府県対抗形式により、天皇杯(男女総合優勝)と皇后杯(女子総合優勝)を巡る熱戦が繰り広げられます。全障スポは障がいのある方がスポーツ競技を通じ、障がい者の社会参加の推進を図るとともに、国民の障がいに対する理解を深めることを目的とした大会です。

 島根県

# 国スポ、全障スポって？

参加者のべ80万人  
経済波及効果600億円



経済効果600億円



近年、他県で開催された大会の結果報告によると、約2週間の期間中、日本全国からのべ約80万人の参加があり、600億円を超える経済波及効果につながるなど、都道府県ごとに開催されるイベントの中では国内最大規模となります。直接的な経済効果に加え、多数の参加者を県民が温かく受け入れることにより、地域のファンづくりなど、「交流・関係人口の拡大」による地域活性化が期待されます。

スポーツを中心とした  
地域づくり・人づくり



昭和57年(1982年)の「くにびき国体」「ふれあい大会」開催により、ホッケーの奥出雲町、カヌーの美郷町などスポーツが地域に根付くとともに、障がい者の方に対する理解が進みました。今大会の開催においても、スポーツを通じた「街づくり・人づくり」につなげます。また、日本トップレベルの選手に間近で触れることにより、「スポーツの普及」や「本物の競技力向上」につなげます。

すべての市町村を舞台に  
地域を盛り上げます



「国スポ」と「全障スポ」は、スポーツ関係者だけのイベントではなく、地域に伝わる伝統芸能や工芸品、食、県民が取り組む音楽や美術活動など、島根の文化・芸術を県内外の方に伝える貴重な機会になります。すべての市町村で開催し、すべての県民の皆様と一緒に取り組むことにより、「次代を担う若者の郷土愛」「観光などの産業振興」につなげます。

## 「健康で心豊かに生活できる島根」につなげます

少子高齢化による人口減少や新型コロナウイルス感染拡大といった厳しい状況ですが、  
スポーツの力で県民を元気にします。

島根県は健康寿命の延伸を図り、健康長寿日本一を目指します。

「笑顔あふれるしまね暮らし」を守り、育て、未来へつないでいくためにも、1人ひとりが、健康づくりに取り組みましょう。

### \\ 運動、食生活のポイント //

ポイント  
1

いつもの生活の中で  
身体を動かそう!

- いつもより1,000歩(10分)多く歩いてみよう。
- ラジオ体操などの全身を使う体操にもチャレンジしよう。

※体調が悪い時や痛みがある場合は無理をしない。



ポイント  
2

1日3食きちんと食べ、  
体力を維持しよう!

- 主食、主菜、副菜をバランスよく摂ろう。
- 減塩を心がけよう。
- 栄養成分表示を活用しよう。

※エネルギーだけでなく、食塩相当量にも注目!

